

先日、或る僧籍そうせきにある方が、相談にみえた時に、こんな話をしていたんですね、「実は、お墓の事でお尋ねたずしたいのですが……」

——何だか変ですよ、お坊さんが私にお墓の事を尋ねるなんて……。 (笑) こっちが聞きたいような話ですけれどもね。

この方は、田舎いなかの方かたの方なんですけれども、その土地の人じゃない訳ですね。そこのお寺ほらに他から来た人なんです。

実は、その土地にお墓があるんですが、その辺は昔から土葬どそうなんです。しかし、土葬をしていくと、段々／＼場所を取っていく訳です。

で、土地の代表だいいひょうの人達が集まって、この傍そばにもう一つ墓地を造って、そこに其々それぞれ石碑を建てて供養くようしようという事になった。そして、新しい墓地が出来上がった。

ところが、人間というものは、田舎の方に行けば尚更なおさらそうですが、墓の位置いぢの順番じゆんばん

で争いが始まった訳なんです。「家が本家ほんけだ」とか、「分家ぶんけなのに、家の前に来るってのはどういうことだ」とか、大変な騒ぎさわぎになったそうです。中々解決かいけつしない。

しかしまあ、漸くようやく何とか片が付いた。

実は、そのお坊さんの先祖せんぞのお骨こつも、その昔からの墓にあるんですね。ところが、「こんな争いする処の墓地には、自分は入りたくなかったんです」と、そのお坊さんが仰るんですね。

それで、近くにもう一つ市営しえいの墓地があったそうですよ。そのお坊さん、そこを買った訳です。しかし、こちらに自分は入りたいけど、古い墓地には自分の両親がいる。墓地が二ヶ所になった訳ですよ。それでその方が、

「これをどのようにしたらいいでしょうか、お聞きしたいのですが……」

という事だったんですね。私は、

「そのままにしておいたらいゝじゃないですか」

「いやあ、しかしお墓が二つあるってことは、おかしいですから……」

「それじゃ、古い方を掘り起こして茶毘たびに付ふして、それを新しい方に入れなさいよ」

「いやあ、深くってそんな事は出来ないと思いますが……」

「深くったって、あなたが掘るんじゃないでしょうが。誰かに頼んで掘って貰いなさいよ」

「いやあ、それはちよつと……出来ませんねえ」

「出来ない事、私に聞いたって、そんな事分かりませんよ」(笑)

「どうしたらいゝんでしようかねえ、先生」

それで私はね、

「あなた達は、魂を入れたとか、出したとか、そういう事をやらないんですか？」

「あゝ、それならやります」

「あなた、お坊さんだから自分でやればいゝじゃないの。古い処に行つて、『今から魂を抜きますよ』ってやつて、新しい方に魂を入れたら、古い方は要らなくなるじゃないの、それでいゝよ」

「あつ、そうですね。そうしましょうかね、それにしましょう」

——そうしましょうかってねえ……。 (笑) この人、お寺さんですよ。

そういう人が、誰か亡くなつたら、どうするの？ ——お参りに来るんですよ。(笑)
お経を上げに来るんですよ。全く参ってしまいますねえ……。

ところが、こういうのが今は当たり前、普通なんですよ。迷っている人が拝むんですから、(死んで)迷っている人は、尚迷ってしまいますよ。——そうですね。

その後、どんな事をしたのか分かりませんが、これもやはり執着ですね。
お墓に対しての執着ですよ。

この頃は、墓地の宣伝をしていますよ。昔の墓地に比べれば明るくなりましたよ。公園になつたりしてね。まあ、その辺は非常によろしい。

まあ、私達は、こういう話を聴いても、中々出来ないと思いますよ。

例えば、私が今ズツと話してきたように、「あの世があるんですよ」とか、「捨てる場所があるんですよ」とか、「人間の心つていうものは、物凄く感情の起伏が激しいんですよ」とか、話しましたよ。

それじゃあ、家に帰つて、本当にやりますか——。

例えば、「高橋信次先生の本は読まなくちゃいけませんよ」って私は言います。ど

れだけの人が本当に本を読んでいるかということですよ。

ところが、実際に本を読んでもみると、読むっていうことは中々大変なんですね。学校で本を開いて、「みんな聴きなさい、読みますよ」と言うなら聴くかも知れない、読むかも知れない。しかし自分一人になると、やっぱり人間というものは、自分自身には甘い訳ですよ。善いと思っても中々出来ないんですね。

私が、「本を読みなさい」と言っても、「あゝ、そうですね、読みました」と、中々そうはいかない。余程本を好きな人でも読まない。

そうしたら、これはどのようにしたら良いでしょうか？——これは何時も申し上げますようにね、一行でも良いですから読みなさいということですよ。一行でも良いですよ。そういう習慣を付けなかつたら読めないと思いますよ。——そうですね。

その辺が、やはり人間というものは、何事に於てもそうだと思うんですよ。努力ですよね。それをやるだけの、やっぱり勇気がなければ駄目ですよ。そんな事は勇気じゃないと思うかもしれませんがね。

そうですね——自分がやっている中で、自分にきつい事をやるのは勇気じゃない

でしょうか。自分の事を人に見せるのが勇気じゃないですね、これは——。

幾ら、「高橋先生の話は良いですよ」と言っても、受け取った人がやらなかったら何にもならないですね。

私は、「やってください」とも言わない。「やれ」とも言わない。「こういう事ですよ」とは話する。

しかし、それは何故でしょうか？——一人／＼の心の状態は、其々みな違う訳ですよ。私よりもっと知ってる人もいる。やってる人もいますよ。しかし中々いないんですね。

で、「あつ、お墓つてのはお化けがいるそうぞ」と、それくらいの事は、聴いた事をみんな持つていくと思うんですよ。(笑)

皆さんもね、今日は本当に大事な時間を割いて、ここに来ていらつしやると思いますがよ。——そうですね、遊んでる時間じゃないですよ。暑いところを、こうやってここまで電車に乗って、いらつしやる訳です。

こういう話というものは、自分に当てはめてみて、それを無駄にははいけないと

いうことですよ。無駄むだにしてはいけない——。

「誘さそわれたから」、「しょうがないから」と来るんだったら、来ない方がいゝですよ、本当は——。

自分がここに来て、何かこう一つでも自分というものに、大事なものを受け取って帰らなくてはいけないと、そうであるならば、話をする私の方も良いですけれどもね。これは何処どこに行つて話をしてもし緒いとですね。

——次回に続く

次回『二三、悟さとりは毎日の生活の中に』の更新予定は、6月の第3週です。
どうぞお楽しみに。